

# さんま通信

## 秋



厚生中央病院だより 第35号 2013年



## 『顔面けいれん・三叉神経痛』根治治療のご紹介と専門外来のご案内

脳神経外科部長 橋木 治

今回は顔面けいれんと三叉神経痛についてお話しします。全く違う病気のようにですが、その原因は頭蓋内で正常な血管がそれぞれ顔面神経を圧迫するか、三叉神経を圧迫するかの違いです。

以前は対症療法のみでしたが、最近は手術で治すことができるようになりました。当院では、当手術4000例という世界有数の経験数を誇る田草川 豊医師が根治手術を行っております。

### 顔面けいれん

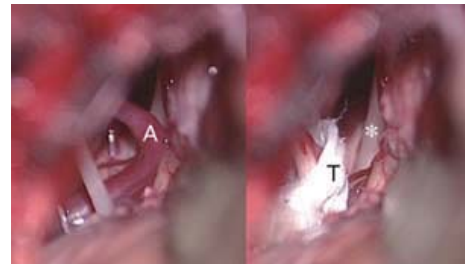
初期は目の周りが少しピクつくぐらいですが、そのうち顔半分全域に広がります。ひどくなると対人関係に苦労したりすることになります。

- 診断** 脳神経外科専門医が診察し、MRI検査により圧迫している血管を同定することができます。
- 治療** 手術療法が根治的治療となります。神経減圧術（微小血管減圧術）という手術を行います。患側の耳の後ろの頭蓋骨に穴を開けて顔面神経を圧迫している血管を移動させるという手術です。  
この手術を世界中に広めたJannetta博士のグループでのけいれんの完全消失率は84%と報告されていますが、当院の消失率は97%と非常に優秀な成績を治めています。
- 手術のリスク** 聴力障害や顔面神経麻痺などの危険性が0.5～1.0%ほどあります。詳しくは特殊外来でご説明します。
- その他の治療** ボツリヌス毒素治療という注射して顔面筋を麻痺させるという対症療法がありますが3～4か月ごとに注射を継続しなくてはなりません。

### 三叉神経痛

顔半分に突発的に一瞬走るような激痛で数秒から長くても数十秒です。歯磨きなどで誘発されることもあり、ひどくなると食事さえとれなくなることもあります。

- 診断** 専門医の問診や診察 MRI検査などで診断します。
- 治療** カルバマゼピンという抗てんかん薬を内服して効果をみますが、ふらつきなどの副作用が強いときなどは、やはり微小血管減圧術を行う場合があります。基本的には顔面けいれんの手術と同じですが、更に脳の深い位置を操作することになるので難易度は高まります。当院では90%の痛みの完全消失改善率です。
- 手術のリスク** 一般的な手術死亡率は0.3%です。
- その他の治療** ガンマーナイフなどの定位放射線療法や三叉神経ブロックなどが試みられています。



術中写真

左 顔面神経に血管(A)があたっています。  
右 減圧後、圧迫していた血管は人工の線維のテープ(T)で包まれて移動されています。顔面神経(\*)は圧迫が解除されました(日本脳神経外科学会HPより)

当院では、毎週火曜日9時～11時に「顔面けいれん・三叉神経痛専門外来」を設けていますので、来院のうえご相談下さい。

厚生中央病院 脳神経外科外来 担当 橋木(うつぎ) 治

予約専用電：03-3716-8124 受付時間：平日(月～金)9時～16時

### 目次 contents

『顔面けいれん・三叉神経痛』根治治療のご紹介と専門外来のご案内 ... 1

下肢人工関節の治療について ..... 2～3

クリスマスコンサートのご案内  
第20回 健康セミナーを開催しました ... 4



目黒で野駈けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る!』当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

# 下肢人工関節の治療について

---

人工関節センター長(副院長、整形外科部長)

小杉雅英

下肢の関節の痛みは歩けない、立ち上がれないなど生活に直結した障害です。

いわゆる加齢による変化は変形性関節症といわれ高齢化により増加しており、生活の質を低下させる大きな原因となっています。

膝さえよくなれば、股関節さえよくなればもっと動けるようになり楽しいバス旅行さらに海外旅行に行けるのではないかと考えている方はたくさんいらっしゃるはずです。

現在手術・麻酔は進歩しており、ちょっと前までは手術したくてもできなかった方ができるようになり、手術直後は少し痛いですが（ブロック併用の麻酔で最近はかなり軽減しています）今後の生活に希望を持って退院できるようになっています。

その手術が下肢特に股関節・膝関節の人工関節手術です。

厚生中央整形外科は近年安定して年間700例を超える手術を施行しています。

その中でここ10年以上にわたり人工股関節と人工膝関節合わせて130例前後、人工骨頭等も含めると160例前後の手術を施行しています。

当院は人工関節を開始してから30年以上経過した経験と、ここ10年で1000例以上となり20年では2000例に近くなった人工股関節・人工膝関節を施行した実績があります。

経験症例が多くなるにしたがい、人工関節のゆるみの問題、それによる再置換の必要も今後多くなることが予想され、今後責任を持って専門的・継続的に当院で人工関節の手術を施行し術後経過を診るため、以下を特徴として人工関節センターを設立し診療を開始しました。

- ①地域における長年の人工関節の手術の実績と評価／30年前より人工関節手術施行し、継続した下肢人工関節の実績があります。
- ②継続的な医師の診療 長い勤務年数のある医師が継続的医療を行い、医師が変わっても残っている医師が継続的に術後の患者様の経過を追っています。患者様の希望に応じて術後1年以降も4～12か月に一度経過観察評価のための受診をしていただき異常等に対するの早期な判断をしています。
- ③希望にそった入院手術／整形外科病棟は2病棟75床あり入院に対してお待たせすることがありません。手術枠も十分にありほぼ患者様の希望日時に手術できる体制ができています。痛くて動けないのに入院できない、入院待ちのため痛いのを我慢するなどが無いよう心がけています。

④実績信頼のある入院看護リハビリテーション体制／毎日、可能な限り日に複数回の回診・診察を行っています。家で日常生活のできる状態まで／術後4週退院のクリニカルパスや週に3度のカンファレンスで満足できる医療・看護・リハビリテーション体制を確立しています。

目黒／渋谷／品川を中心とした地域でよりよい整形外科／人工関節に関する医療をすすめていきます。下肢の関節の痛みでお困りの方のお役に立てるよう診療にあたります。

### ●スタッフ

|         |                      |                  |
|---------|----------------------|------------------|
| センター長   | 小杉雅英(副院長、整形外科部長)     | 股関節／膝関節／足関節／RA   |
| 副センター長  | 宮本 哲(整形外科医長)         | 関節鏡、膝靭帯再建を含んだ膝関節 |
| スタッフ    | 佐々木伸(整形外科部長、リハビリ科部長) | 手の外科専門医／RA       |
|         | 中川雅之(整形外科医員)         | 股関節              |
|         | 濱畑智弘(整形外科医師)         | 股関節              |
| 非常勤スタッフ | 塚本理一郎                | 股・膝関節            |

くわしくはホームページを参照ください。

下肢の痛みで困っている方はご相談ください。痛みなく、ご家族そして親しい方とバス旅行や海外旅行に行きましょう。



## クリスマスコンサートのご案内

恒例になりましたクリスマスコンサートを下記のとおり開催いたします。

演奏は病院職員を主に、患者さまのグループやご近所の方など幅広く、演奏の他に様々な催し物もご用意しておりますので、お誘いあわせのうえお気軽にお越しください。

予約は不要でどなたでもご参加いただけます。

**開催日時：平成25年12月19日（木曜日）16時から**

**開催場所：厚生中央病院 1階ロビー**

## 第20回 健康セミナーを開催しました

8月17日(土)午後2時から第20回 健康セミナーを開催しました。当院 眼科医長 森 秀樹 医師が「高齢者に多い眼の病気」をテーマに、緑内障や白内障など高齢者の方に多く発症する眼の病気についてわかりやすく説明しました。当日は猛暑の中、120名と大変多くの方々にご参加いただきました。当院では、今後も皆さまの関心が高いテーマで健康セミナーを開催する予定です。



### 病院の理念

- ・私たちは、心の通った温もりを感じる医療を目指します。
- ・私たちは、組合被保険者ならびに地域の人々の健康と福祉に貢献します。
- ・私たちは、病院機能の充実を図り、サービス向上のため日々研鑽します。

### 基本方針

「健全な経営と安全で質の高い地域中核病院を創造する」

### 行動目標

- ・私たちは、患者さんから選ばれる病院を創り上げる。
- ・私たちは、効率的で質の高い安全な医療を構築する。
- ・私たちは、安心と誇りを持って働き、一番大切な人を受診させたい病院にする。

### 患者さんの権利

- ・最良の医療を受ける権利
- ・病気について、理解可能な言葉で説明を受ける権利とその説明に対して意見を述べる権利
- ・プライバシーが守られる権利
- ・転院の権利
- ・診療情報の開示を求める権利

### 患者さんの義務

- ・自己の療養に関して病院職員に協力する義務

